

# バックカントリーへ行く皆様へ

## 1:バックカントリーはスキー場ではありません

- ★バックカントリーとスキー場では以下の点が異なりますので、ご理解をお願いいたします。
- \*スキー場のコース内でのケガや救助は基本的には無償で救助となっていますが、バックカントリーでの救助は有料となる場合があります。
- \*スキー場での救助は、常にパトロールが待機し、適切で迅速な対応ができます。バックカントリーでは、できません。
- \*スキー場は、安全点検をおこなっていますが、バックカントリーは手つかずの状態でのような危険が潜んでいるかわかりません。
- \*スキー場では天候が急変した場合は、レストラン等に避難することが容易ですが、バックカントリーでは避難場所がございません。
- \*スキー場は滑走しやすいように圧雪車で整備している場所がありますが、バックカントリーでは気象条件で積雪状態が大きく変わります。
- \*スキー場では危険箇所にマーキングされていますが、バックカントリーでは自然の状態です。

## 2:バックカントリーを安全に楽しむためのヒント

- ★バックカントリーを安全に楽しむためには、技術や知識そして経験が必要です。
- \*登山届を提出しましょう。提出方法は最寄りの警察署のWEBを利用や登山届で検索してください。  
(登山届は、警察だけでなく、家族や車のダッシュボードに置いておくことで役立つ場合があります)
- \*必要な装備品を携行しましょう。(ビーコン・プロープ・ショベル・ヘッドランプは当然の装備です)
- \*バックカントリーでの遭難で最も多いのは、道迷いです。道迷いにならないようにGPSなどを持つようにしましょう。
- \*装備品は準備するだけでなく、使い方をマスターしましょう。
- \*単独行動は、リスクが高くなる傾向があります。技術や知識そして経験豊富な仲間との行動をお勧めいたします。
- \*行動前に天気予報を確認し、過去の天気や状況については、最寄りのスキーパトロールに尋ねて行動計画を立てましょう。
- \*行動計画は正確に登山届に記入し、可能な限りエスケープルートや予備の行動食等の記述も忘れないようにしましょう。
- \*知識や経験、そして地形を上手に使って行動し、様々なリスクを少なくする行動を心がけましょう。
- \*携帯電話等の予備バッテリーの持参をお勧めします。
- \*ビバークができる知識や技術の習得をお勧めいたします。
- \*自分たちで対応できない状況が発生したら、すみやかに救助要請(110番)をしてください。
- \*バックカントリーでは、自分の感覚よりも『慎重だな』と思える行動が安全につながります。

(一財)日本鋼索交通協会・全国スキー安全対策協議会

2023年11月